

北畠道龍きたはたみちりゅう 僧侶。文政三年九月二十一日紀伊國和歌浦生れ、明治四十年十月十五日歿（一八二〇—一九〇七）。講徒教、幼名宮内。號今白庵、白田。體軀肥大、風貌森嚴。劍柔兩道を修め、平素朱鞘の長劍を手持たばさみ、郷黨めらへ今辨漫よと稱よばれた。京都西本願寺學寮に入り、學頭と選ばれる。文久三年津川の變、僧兵を組織して鎮定の功を擧げた。のち還俗して士籍に入り、明治二年藩制改革の際、聯隊長、町參事、また徴兵使となり全國初の徴兵検査を實施。翌年廢藩に致仕。十年陸奥宗光と共に土佐派と提携して擧兵、政府顛覆を企てると果せず。その後再び僧侶となり西本願寺執事。宗教視察で歐洲を巡り、歸路インド佛蹟を訪ねた。二十一年頃宗教改革論を唱へて僧籍剝奪、大學設立の著手するも不着尾さばに了つた。大阪に歿す。

著書は『天竺二行路次所見』全三冊（明治十九年七月北畠孝夫刊、荒浪平次郎出版所）、『生野政治家及宗教家』（明治二十一年五月十五日九春堂）、『二問我日本人民』（明治二十五年一月九日土塔閣藏版）他多數。漢詩、和歌も能くした。